

## 30年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
入荷動向	国産材	△ 8.3	△ 8.3	16.7
	外材	0.0	0.0	12.5
在庫動向	国産材	8.3	8.3	0.0
	外材	37.5	25.0	0.0

・国産材の入荷動向は2月、3月の横ばいから4月は増加に。外材は2月、3月の横ばいから4月は増加に。  
・国産材の在庫動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。外材は2月、3月の増加から4月は横ばいに。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
国産材	8.3	0.0	8.3
欧州材	62.5	50.0	50.0
その他	75.0	75.0	75.0

・国産材ラミナの購入価格動向はやや強含み。欧州材、その他(米材)は強含み。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・国産材ラミナの入荷動向は、当社においては「ヒノキ」になる。2月まで全力集材で走ってきたが、3月は製品の動き低下により、若干の生産調整を考えている。それに応じて社外協力工場からの外部仕入れも3月は少し抑えるつもり。4月からは荷動き回復を予想しており購入量は例月並みに戻す。外材は、今期のカナダバンクーバーエリアの冬季の天候は良好で、積雪も少なく、材価上昇によって原木供給業者の造材意欲も高く、順調な伐採が進んでいる。弊社の米ヒバ材の在庫も増えつつあり、また原木の手当ても順調に進んでいる。従って、2月、3月には米ヒバラミナの入荷も少しづつ増えてくる見込みとなっている。4月は当面の在庫確保が完了したことから、入荷量は増やさず、市況に応じて様子を見る。

・国産材ラミナの在庫動向は、当社においては「ヒノキ」になる。当社新製材工場が順調に立ち上がって来ており、自社製材量が大幅アップ。一方、製品の荷動きが2月、3月と低調な予想となっていることから、ラミナ在庫は増加する見込み。なお、ラミナ在庫が増えても当社桧原木の製材量は落とさないでそのままのペースで製材量は確保する予定。外材は、当社の場合は「米ヒバ」。入荷動向でも記した通り、コストは別として、材料は集まりつつある。一方製品販売の方は季節要因と製品価格の値上げにより荷動きが悪くなってきており、米ヒバ集成材の生産量も徐々に減少している。こちらも2月、3月にはラミナ在庫増加に転じる。4月は市況の状態を見ながらラミナ入荷量を調整する。

## (ラミナ価格動向)

・国産材は当社の場合ヒノキ、積雪の影響で産地からの出材が少なく、瞬間的に需要>供給の構図になっているため、ヒノキ原木価格が上昇している。従って外部購入するヒノキラミナはごく若干だが値段が上がって来ている。ただし、3月には積雪の問題が改善し、ヒノキ原木の出材も戻ると予想され、ヒノキ原木価格も安定するので、ヒノキラミナの価格上昇も瞬間的な影響と思われる。

・外材は、世界同時好景気の様相を呈しており、米国を筆頭に世界的に木材需要は高まっている。従って、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており1st QTの価格も軒並み値上がり。依然として米ヒバ材は米国の旺盛な需要に引っ張られて値段が上昇しており手が付けられない。ただし、冬季のカナダバンクーバーの天候は例年に比べて好調で、2nd QT以降は潤沢な出材が期待でき、2nd QTには値上がりも一度踊り場を迎えるのではないかとと思われる。

## 30年2月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
生産動向	国産材	△ 8.3	△ 8.3	16.7
	WW集成管柱	△ 50.0	△ 33.3	△ 16.7
	RW集成平角	△ 37.5	△ 25.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 12.5	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 25.0	△ 8.3	8.3
	WW集成管柱	△ 83.3	△ 50.0	0.0
	RW集成平角	△ 62.5	△ 25.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 12.5	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・構造用集成材の生産動向は、国産材は2月、3月の減少から4月は増加に。WW集成管柱は3か月連続減少。RW集成平角は2月、3月の減少から4月は横ばいに。米マツ集成平角は2月の減少から3月、4月は横ばいに。

・出荷動向は、国産材は2月、3月の減少から4月は増加に。WW集成管柱、RW集成平角は2月、3月の減少から4月は横ばいに。米マツ集成平角は2月の減少から3月、4月は横ばいに。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
スギ集成管柱	0.0	0.0	8.3
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	12.5
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	12.5	12.5	12.5
米マツ集成平角	12.5	37.5	37.5
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	50.0	50.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	50.0

・スギ集成管柱は値上げ要請により強含み。ヒノキ集成柱・土台、カラマツ集成土台は横ばい。

・WW集成管柱は横ばい。RW集成平角、米マツ集成平角は強含み。米ヒバ土台角は強含み。その他の品目は横ばい推移。カラマツ集成平角は強含み。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・国産材は構造用集成材は当社においては「ヒノキ集成材」となる。製品の荷動きは年明け以降季節的な要因（積雪などによる現場遅れ）と年度末に向けた在庫調整などが重なり悪化しつつあるが、弊社では製品在庫が全くない状態が長く続いたため、2月までは全力生産。3月も引き続き荷動き低調な予測のため、若干の生産調整を実施し、4月からまた全力生産に戻す計画。WW集成管柱は当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材がマーケット認知が進み一定のシェアを得たことでWW集成管柱の需要自体が減少していること。2月、3月の荷動きが非常に低調であったことなどから無理な操業はせず、どちらかと言えば減産や生産調整を行っているものと思われる。RW集成平角は、当社では生産していないが一般的な同業他社の情報によれば、2月、3月は予想以上に荷動き低調で、国内大手メーカーも製品在庫が増えており、生産調整や減産の話が聞かれる。4月からは大手建売系の住宅会社の新年度分の着工が始まって来るので、荷動き回復が期待できる。米マツ集成平角は、当社では生産していないが増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。米ヒバ集成土台はラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。それに比して弊社の生産も減産を継続、今後弊社の生産の中心は完全にヒノキ集成材へシフトするだろう。

・国産構造用集成材の出荷動向は、引き合いは季節要因（積雪などによる現場遅れ、年度末決算対策在庫調整）とマーケット自体の停滞により、あまり強くなく、年末年始を境に完全に潮目が変わった。今年度内は出荷減少続く見込み。WW集成管柱は、当社では生産していないが一般的な同業他社の情報によれば、競合する杉集成材がマーケット認知が進み一定のシェアを得た事でWW集成管柱の需要自体が減少していること。2月、3月の荷動きが非常に低調であったことなどから、出荷量も減少傾向にあるものと思われる。4月以降は市況も若干好転し、出荷も少し戻るか。米マツ集成平角は、当社では生産していないが一般的な同業他社の情報によれば、2月、3月は予想以上に荷動き低調で、国内大手メーカーも製品在庫が増えており、出荷量も低調、4月には若干市況好転が期待されており、出荷も少し戻るか。米ヒバ集成土台角は、当社では生産していないが増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。米ヒバ集成土台

(構造用集成材の出荷価格動向)

- ・スギ集成管柱は、前月同様値上げ交渉継続。底値を決めて体制の整っている顧客から案内。集成間柱は出荷が追っていない状況。管柱同様、値上げ交渉継続中（東北）。
- ・構造用集成材の出荷価格動向は、スギ集成管柱は当社生産品目ではないが、国内大手生産メーカーの東北の新工場の稼働が軌道に乗ったことや、マーケットそのものが年明け以降停滞していることもあり、横ばい推移が続く。ヒノキ集成柱は、当社では年明け以降引き合いが落ち着いたものの、全力生産を維持している、2月まではこの生産ペースを維持する。販売価格も引き続き維持していく予定。ヒノキ集成土台は、当社では年明け以降引き合いが落ち着いてきたものの、全力生産を維持している。2月まではこの生産ペースを維持する。販売価格も引き続き維持して行く予定。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが同業他社の話によれば、価格は横ばい状態の様様。WW集成管柱は、当社では取扱いないが一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、前述のスギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本くらいでの横ばい推移とのこと。荷動き悪化のため、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。RW集成平角は、ラミナコスト上昇、製品の引き合い強いと言うことで、値上がり傾向。1月には現在の国内大手メーカーの販売価格で63,000円/m<sup>3</sup>から64,000円/m<sup>3</sup>くらいまで上昇て来たが、ここにきて荷動き悪化、これ以上の値上げについて当面様子見ではないか。米マツ集成平角は、当社では生産していないが増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。値上げ後単価適用時期にズレがあるため、3月頃まで販売価格は上昇を続ける。